

「徳次郎」は、 トクジロウかトクジラか

宇都宮伝統文化連絡協議会顧問 柏村 祐司



日光久次良から勧請された智賀郡神社



読みかたトクジロウとある道路標識

日光街道と国道二九三号が交わる付近を徳次郎という。江戸時代においては、日光街道筋の宿場として栄えた所である。この徳次郎宿は上徳次郎宿・中徳次郎宿・下徳次郎宿に分かれており、宿内の長さは上・中・下徳次郎合せて南北九町二七軒・約一キロにおよぶ。天保十四（一八四三）

年の「天保郷帳」には家数二六八軒、本陣が上徳次郎宿・中徳次郎宿各一軒、仮本陣が下徳次郎宿に一軒、脇本陣が上徳次郎宿に二軒、中徳次郎宿に一軒、仮脇本陣は下徳次郎宿に一軒、旅籠屋は七二軒とあり、日光街道中の宿場では大きい方である。

ところで徳次郎の名称であるが、年配者の多くは、トクジラが正式名称と理解しているのではなからうか。かくいう筆者もそう理解していた。古い話になるが、昭和五十年頃、ある印刷物に徳次郎について執筆し、トクジラとルビを振ったらトクジロウ

と訂正された。早速、宇都宮市に問い合わせたところ、トクジロウが正式名称だといひ、トクジラは通称だといふのである。どこかで呼び名が入れ替わったとしか思えない。

徳次郎の由来について見ると、徳次郎は、日光の久次良に勢力を持つていた一族が宝亀九（七七八）年に、日光山よりご神体を千勝の森（現智賀郡神社）に勧請してお祀りした。そこで新しくご神体を祀った所を日光の久次良に対して外久次良と称したことよるといわれている。つまりソトクジラが「外」をとと読むことからトクジラになったといわれる。

トクジラの呼称を証拠だてる史料がある。男体山頂遺跡から出土した貞治三（一三六四）年の禅頂札に「得志良近津宮四郎大夫家守」と見えた際に山頂に納めた金銅製の札であり、得志良はトクジラであり、当地の近津宮に仕える四郎大夫家守が奉

納したものである。時代は下って江戸時代の寛文七（一六六七）年に建立された宇都宮市篠井の「篠井神社」の扉には「宇都宮外久次良大明神」とある。現在の智賀郡神社をいつたものであるが、「外久次良」の文字は、まさに先の徳次郎の由来を示す。このように由来伝承や歴史史料からも本来、徳次郎の呼び名はトクジラであったことが分かる。

さて、得志良とか外久次良と書かれたものが、現在の徳次郎と記されるようになったのは、何時の頃であろうか。戦国期の吉川藏人允宛江戸忠通官途状写に「今度徳次郎原合戦、動無比類候、仍成官途候」にある。しかし読みはトクジラであつたはずである。

そうした徳次郎が、トクジロウと呼ばれるようになったのは、昭和二十九年、徳次郎を含む富屋町が宇都宮市に合併した折のことだといふ。市職員が地名一覧の原簿に記載した際に、呼び名を文字通りトクジロウと登録したことによるといふ。一旦正式に登録された呼び名は簡単に元に戻せない。地元住民の知らない間に、トクジラはトクジロウとなつてしまったというわけである。

地名、およびその呼び名は、その土地の歴史、由来を伝えるものであり、地名の変更や呼び名のルビを振る際には、慎重に行つてもらいたいものである。